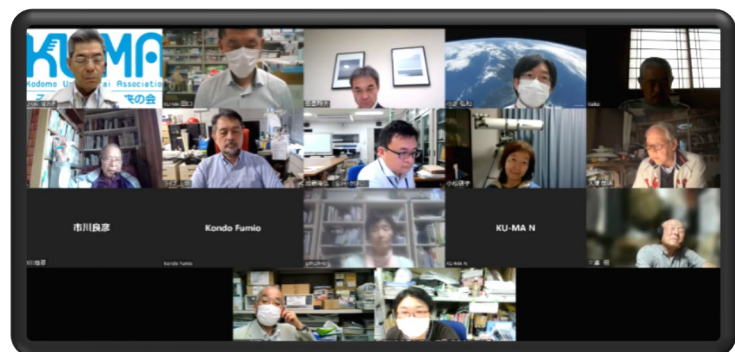


KU-MA No.29 2022.summer ニュース

Kodomo Uchu Mirai Association

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】



議決権を有する会員は百五十四名、出席者十五名、書面表決七十六名、総会は成立し審議に入りました。

活動レポート

令和四年六月十五日 通常総会 開催

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、事前に送付した資料を確認して頂き、はがき返送による書面表決およびオンライン開催で、昨年度の事業報告・決算報告、今年度の事業計画、予算案の審議が行われました。

活動報告では、「宇宙の学校」事業は、宇宙教育センターと協議の上、感染状況の確認を行って、新型コロナウイルス感染症対策を取りながらの対面開催が再開されたことやオンラインへの切替で支援を行ったこと、その他イベントや講演等実施した活動について報告がありました。

決算報告では、令和二年度にあった給付金は今年度なかったものの少しずつイベントなどが再開し、全体の収益総額が増加したこと、しかしながら、まだコロナ禍の活動で自由に活動が出来ていないことの表れた決算となったと報告が行われました。その後、令和四年度の事業計画、予算案の審議が行われ全ての承認を得ました。審議終了後、会員の方からご意見や質問など活発な意見交換が行われました。

回答…稲葉 副会長

「いのち」の大切さを伝えていくということがKU-MAの活動理念や大事なことはわかるが、具体的にはどのようなことを考えているのか？

総会での「意見・質問」

先日、的川名誉会長と話す機会があり、今年は「いのち」の大切さを強く訴える年だと感じている。宇宙教育は「宇宙教育Ⅱ宇宙」のような宇宙を教える教育を行うのではなくて、大事なことは宇宙で教えること、宇宙の視座で「いのち」の大切さを子どもたちや保護者に機会がある毎に伝えていくことを大事にしていこうと話をしました。

この広い宇宙の中で奇跡的に育まれている大切な「いのち」を粗末に扱う人や奪うような行為をするリーダーがいることが良くない事や科学技術の知恵や知識は人類全体の平和や一人一人の幸せのために使っていくんだということを小さな頃から子どもたちに気づいてもらえるよう力を入れて行きたい。

全国の方々と情報交換や協力し合いながら活動していきたいと思っています。

名誉会長の的川泰宣先生が、令和4年度「空の日」日本航空協会表彰「航空功績賞」に選ばれ9月20日に表彰式が行われました。おめでとうございます！

活動報告

🌻自主事業

6/15 令和4年度通常総会開催

🌻イベント支援等

7/4、15 杉並区立小学校 特別授業

9/4 ジャポニカ学習帳「宇宙教室」支援

9/30、10/1 山口県大人版「宇宙の教室」

🌻「宇宙の学校®」

全国30か所で開催中

開催地についてはWebページをご確認下さい。

🌻企業CSR支援

7/13 中学校理科授業支援

8/13 工学教室支援

🌻その他

・6/18 宇宙教育地域フォーラム in 佐賀にて活動紹介

・教材販売

手作り望遠鏡、ロケット教材、星座絵をつくろう、飛行機教材等教材キットを多数販売

🌻今後の活動予定

10/2 多摩市大栗川・かるがも館 講演会

10/13 静岡県小中学校 理科授業支援

10/14 安来市小学校・中学校 出前授業

10/15 さんそ学習館ケイオス宇宙教室

10/15 宇宙教育シンポジウム 活動紹介

10/26 ひまわり HAUS（新宿養護内）宇宙の教室

会員情報

正会員 165(個人:152 学生:0 企業・団体:13)

賛助会員 46(個人:35 企業・団体:11)

みなさまの会費や寄付金が運営費の一部となり、KU-MA 活動を展開させていただいております。

日頃のご支援に心より感謝を申し上げますとともに、引き続き、活動および活動資金へのご協力をお願いいたします。当会への寄付(賛助会費含む)は、寄付金控除の対象となります。詳しくはWebページでご確認ください。

■編集後記

最近では活動によってあまり顔が出ないように写真を撮ることも多くなりましたが、今回、写真を探しているうちに、故遠藤先生は、子どもの表情や活動しているスタッフの姿も一人一人観て記録して下っていたことを感じました。(い)

古い活動写真を見ているとマスクしていないのが当たり前ですね。マスク無に戻るのはいつの日かなあ。個人的には髭剃りがいい加減で済むからこのままでも良かったりします。(田)

■会員募集中！！

◇正会員：KU-MA のミッションに賛同し、活動を推進する個人/法人・団体

年会費 個人：10,000 円(学生 5,000 円)、法人・団体：50,000 円

◇賛助会員：KU-MA のミッションに賛同し、寄付いただける個人と法人・団体

年会費 個人：10 1,000 円、法人・団体：10 50,000 円

※個人賛助会員への会員証の発行、メールマガジンの送付は5口以上からです。

■会費や寄付金のお振込先

【会費や寄付金のお振込先は下記の口座へ】

横浜銀行 刈野辺支店 普通預金 1768456

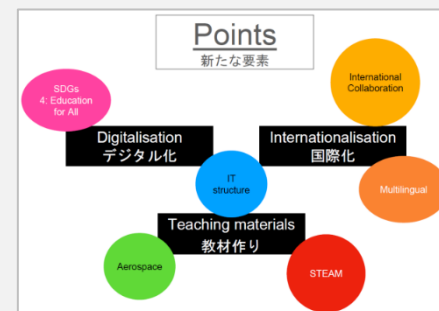
特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
会長 並木 道義

「宇宙教育地域フォーラム in 佐賀」に参加して
副会長 稲葉 茂

令和4年6月18日(土)に佐賀県武雄市にある佐賀県立宇宙科学館《ゆめぎんが》で宇宙教育地域フォーラムが開催され、その中でKU-MA も活動紹介を行いました。

最初に JAXA 宇宙教育センターの新センター長北川智子様から宇宙教育センターの新たな取り組みとして、「デジタル化」「国際化」「教材づくり」という新たな視点についての説明が行われました。(右図参照)

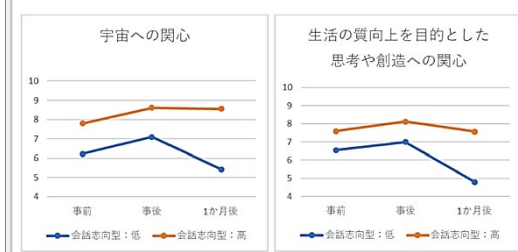
続いて、独立行政法人教職員支援機構上席フェロー 百合田真樹人様から「宇宙の視座から培う学びと実践の新たな視座」というテーマで講演が行われました。



宇宙教育地域フォーラム in 佐賀 資料より

この中で特に印象に残ったことは、JAXA の宇宙教育は、広義の宇宙教育と異なる出発点を持つ教育ということです。具体的には、「宇宙の視座から設定された教育」で倫理(人間主義)・動機(知的好奇心)と態度(探究心)の育成をめざしているということでした。

まさに、遠い宇宙から地球を見た時、小さな点のような星でロシアのウクライナ侵攻により多くの大切な「いのち」が失われている現実を考えることの大切さを実感しました。また、国立大学法人島根大学教育学部 准教授 香川奈緒美先生からは、「探究力向上を目的とした宇宙教育の成果と課題」というテーマで「宇宙の学校」の成果について報告がありました。



宇宙教育地域フォーラム in 佐賀 資料より

右上のグラフのように「宇宙の学校」に参加して、仲間や保護者とのコミュニケーションが増えること「宇宙への関心」や「思考や創造への関心」が高いことが示されました。

この他、九州各地で実践されている教育活動の紹介がありました。「宇宙を教える」という印象が強いと感じました。「宇宙で子どもが新しい世界に出会う」ことの難しさを改めて痛感しました。

＝＝＝
10月15日、16日に宇宙教育シンポジウムが開催されます。
詳細はこちら>><https://onestep-sound.jp/jaxa-sympo2022/>
KU-MA も活動紹介を行う予定です。

「子どもの宇宙」を広げ 未来を豊かに

KU-MA は JAXA 宇宙教育センターと宇宙教育活動に関する協定書に基づき、連携・協力しながら宇宙教育活動を推進しています
「宇宙の学校®」は、KU-MA の登録商標です

認定NPO法人 子ども・宇宙・未来の会「宇宙の学校」事務局
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1 JAXA 内
電話・FAX：042-750-2690
E-mail：KU-MAs@ku-ma.or.jp
ホームページ：https://www.ku-ma.or.jp

家族が交代でボランティア

2人のお子さんは、宇宙の学校®の卒業生

その後は、ご家族が交代でボランティアとして参加。

開校以来13年。ずっと参加する子どもたちを応援し、見守ってくださっています。

かし の わ か こ
ご家族を代表して、柏野 和佳子 さん（母親）への一問一答です

東京都立川市
宇宙の学校®

宇宙の学校へはいつから参加しましたか？

立川で開校した2009年からです。
娘が小学3年生、息子が1年生の時に家族で参加させていただきました。

印象に残る思い出は？

日食の時に木漏れ日を見ると、木漏れ日は、太陽の変形するそのものを映し出していることを学びました。
2009年は日本国内で日食が観察できた年で、家族で実際に観察できたことが良い思い出になっています。

実験は如何でしょう？

私は、「熱気球を作って飛ばす」が好きです。
みんなで一斉にカウントダウンし、気球が高く飛んだ瞬間に歓声があがり、笑顔があふれる場面は、いつも印象的です。

夫は、「ポンポン船」を絶賛

バケツリレーで水を運び、大きな容器にためるなど、ボランティアの作業はやや大変なのですが、熱によって空気が膨張する原理をうまく使って船が実際に前進する実験は、特に印象的だったと話しています。

KU-MA 会員のご主人は開校当初からボランティア参加してくださっていますね・・・

私は2014年6月から加わりました。

ご家族で参加して 良かったことを教えてください

子どもの頃より科学に触れること、興味をもてるやり方で関わることはとても大事なことで、家族で実感しています。それに引き続き携われることが純粋に楽しく、ありがたい機会だと思っています。

新型コロナと子どもたちⅠ

ーコロナ禍での教育現場の今をー



幼児たちの様子

理想的な行儀の良さなのに本来の姿
ではない黙食の姿に、胸が痛みます

さかいさちこ
酒井幸子

（プロフィール）KU-MA 理事

現在、武蔵野短期大学客員教授・
東京都公立幼稚園教諭・教頭・
園長を歴任。
保育関連の著書も多数



↑昼食時の風景、たくさんの条件を
キッチリ守ります

新型コロナウィルス感染症！
長い流行となりましたが、附属幼稚園での子どもたちの日常は一見変わりません。子どもたちは元氣といえば元氣なのです。友達と砂遊びに興じる、乗り物を駆使してカッコよく風を切る、ままごとのお母さん役を巡って揉めるなど、何事もない日常の園風景が展開されているのです。
しかし、コロナ下の月日を重ねる毎に「何かがおかしい！」と感じることが増えてきました。
昼食時の「黙食」、賑やかだった昼食風景は一変
密にならないよう、飛沫が飛ばないようにと、席を離し、プラスチック板を立て、同方向を向いて、会話は厳禁です。

こんな沢山の条件を幼い子どもたちがキッチリ守るのです。これまで昼食時と言えば、年齢を問わず兎に角賑やかでした。「おしゃべりしないで静かに！」「モグモグしてる時は立っちゃダメよ！」「こんな禁止文句を言うのが私たちの仕事と言えば仕事でした。今、おしゃべり一つすることなく「黙食」している子どもたちを見ると、理想的なお行儀の良さであるにもかかわらず、本来の姿ではない様子に胸が痛みます。
園活動は感染を可能な限り防ぐ措置を取り実施
コロナ罹患者の増減が繰り返され、翻弄される中で、園活動は、感染を可能な限り防ぐ措置を取り実施してきました。多くの行事は、分散、人数制限、規模の縮小、場所の移動等で、一つとして中止をしないで乗り越えてきました。ある保護者が、夏祭りでゆかたを着せた我が子を前に「浴衣、ヤツと着せられました。どこも中止でしたので」としみじみ伝えて下さった一言は胸に響くものがありました。

一方、幼児期に出あつてほしい子どもたちの体験や経験は何とか確保したもの、保護者同士の交流や懇談の機会は極端に減少し、関わり合う中でこそ得られる、保護者への貴重な支援の場を失ったことには焦りを覚えます。
新たな心配も
さらに新たな心配が持ち上がりました。入園の時期を迎えている、コロナ下で生まれた子どもたちの育ちです。とにかく幼いのです。家庭以外の育ちの場の減少や諸々の体験の喪失が要因でしょうか。
でも大丈夫！
まだまだ取り戻せると信じて、コロナ下の子どもたちをなお一層丁寧かつ大胆に支えようと心を新たにしています。



↑夜の幼稚園 キャンプファイヤーの様



↑2010年5月立川市「宇宙の学校」熱気球おりに
きた気球をキャッチしている柏野さん(ご主人)

ご主人や奥様はそれぞれ違う分野の研究者。お二人のお子様も大学生になり、忙しい日々の中、快く参加して下さる姿はとても爽やかです。

インタビュー 浅見 照美 (写真右下 前向き左)



↑写真上 2009年開催模様 ボランティアで参加中のご主人と参加している
ご家族 (写真右)

写真下 2022年立川市「宇宙の学校」開催模様(スタッフ紹介)
柏野さん母子と一緒にボランティア参加
娘さん (前向き左から4番目) ご本人 (娘さんの右)